

2017' 合格体験記

東京学芸大(教) 同志社大(健科) 現役合格 相上生磨 (鴻巣北小→鴻巣北中→熊谷高)

この度、僕は東京学芸大に合格することができました。以下、後輩の皆さんの為に、東大ゼミで学んだこと、高校三年間部活をやってどう合格したのか、をお話します。

まず第一に、「覚悟」を決めて勉強するということです。僕は高校三年間部活を本気でやりました。その結果インターハイにも出場することができました。ですが、部活をしてしまうと、どうしても勉強時間を部活に取られてしまいます。塾に来れる時間も少なくなり、周りに差をつけられてしまいます。ここで僕が一番お話ししたいのは、「覚悟」をもって勉強する事です。電車や休み時間等のスキマ時間を利用して単語を覚える、学校の授業を集中して聞く、塾での勉強を集中する等「覚悟」を決める事が大切です。その少しづつの積み重ねが受験期に自分を助けてくれます。

第二に、自分の志望校を出来るだけ早く決め過去問を解くということです。自分は国立大志望だったのでセンター試験の問題を少なくとも二十年分は解きました。なぜなら、受験直前に過去問を解いても絶対に解けるようにならないし、過去問レベルの問題を繰り返し解くことによるのみ、自分の学力もそのレベルに上がっていくからです。

また、東大ゼミの強みの一つは「直し」です。ほとんどの塾や予備校、受験生では、過去問を解いて丸付け、解説を読んで終わり、が普通だと思います。ですが、東大ゼミでは一回目は青ペンで何も見ず自分で再び考えて「直し」(青ペンの法則)、二回目は緑ペンで教科書などを調べて「直し」をしています。この方法は難大合格に必要な思考力を身に付ける上で、最高の勉強方法だと思います。この勉強をしっかりとやっていく事で本当の実力が付きます。東大ゼミのもう一つの強みは「英語」です。東大ゼミでは英語の授業を通じて勉強の本質を教えてください。英文を一つ一つ分析していく(SVOCMの五文型)のと同じように、他の科目も過去問の設問を一字一句吟味して答えて、いくことは、定期テストなどの暗記の勉強では、身に付けることが出来ません。これらの勉強を徹底的にすることによって「自分で考える癖」が身に付き実力をつける勉強になっていくのだと思います。そのおかげで一番苦手だった英語が一番の武器になりました。

最後に、僕は学芸大にセンターリサーチE判定から合格しました。最後まで志望を貫いて下さい。絶対に妥協をしないで下さい。自分の気持ちに?をつくと後で絶対に後悔すると思います。僕は部活でも高校入学時からのインターハイ出場志望を貫き、叶えました。受験志望も貫き、叶えました。「本気」で何事にも挑み、勝ち取って下さい。塩田先生には約四年間本当にお世話になりました。東大ゼミで学んだ事は一生の宝です。素晴らしい教員になり、活躍できるように頑張ります。本当にありがとうございました。

(青ペンの法則:自分で再度考えた青ペンの点数までの実力は後々付くという法則)